

# Reform に関する一考案

高橋 房子<sup>※</sup>・小川 能子<sup>※</sup>

## A Study on the Dress-reforming

Fusako TAKAHASHI and Yoshiko OGAWA

### 緒 言

衣服などが時代や個人の趣味、あるいは性能低下によって置き去られたり、廃棄される寸前であったものが全く違ったものに作りかえられて役に立った場合これを更生服という（暮しの図監 参照）。洋服を Reform するといえば古い服をあるいはすでにできている服に手を加えたりつくり直したりしてより新しくよいものにすることである（服飾事典参照）。上記のように Reform は相当以前からなされていたと考えられる。わが国の着物つまり和服は縫いがえしがきくところから幾度となく縫いかえし更に小さなものへと創り直されてゆく。こんなことも Reform として立派に役割を果たしている。一番 Reform が叫ばれた時代は、第 2 次世界大戦の終る年を前後に 2, 3 年と思われる。特に戦後は当り前のように和服から婦人子ども服へ、あるいは男子服から婦人服へ、大人物から子ども物へと衣生活を楽しむ工夫がなされた。戦後 4, 5 年の間に新しい衣料が出揃い Reform も忘れかけた時代が続いて来て今日では着捨てを叫ぶ消費時代へと目まぐるしい進歩であるが、果して衣生活におけるわれわれの考え方は新しい時代と共に進歩し変わって来たであろうか。着捨てといってもどの程度着てどのように捨てるのであろうか、そのようなことから現代に生きるわれわれの衣生活に対する考え方を調査してみた。年代別にみる

Reform に対する考え方などアンケートによる調査をもとにしてまとめたものの結果を報告する。

### I 調査対象および調査方法

学生 60 名によって 20 代, 30 代, 40 代, 50 代, 60 代以上の女性に対して調査して貰った結果, 70% の回収率を得た。回収されたものの地域別割合をみると, 表 1 のようになる。

表 1 回収されたアンケートの  
地域別割合

地 域	割 合
広 島 市	22.9%
呉 市	43.3%
郡 部	31.9%
他 県	1.9%

また、回答を年代別にみると表 2 の結果となる。

表 2 回答者年代別平均年齢  
および割合

年代別	平均年齢	割 合
10 代	18.3才	17.2%
20 代	23.8才	19.5%
30 代	33.7才	17.2%
40 代	43.8才	19.5%
50 代	54.2才	13.8%
60 以上	66.0才	12.8%

## Ⅱ アンケートの内容

表3 Reformに関する調査

住所 県 市郡 町  
年齢 職業

- ① あなたは古い洋服とか、着物を何かにつくり直すことをどう思われますか。

- ① よい  
② 必要ない  
③ わからない

- ② あなたは最近何かつくり直されましたか

- ① つくり直した  
② 直さない

- ③ 直した方は何を何につくり直されましたか。

例 着物 → ツーピース  
ワンピース → 子どもスカート  
( → )

- ④ このようなことは今後も必要と思われませんか。理由はできるだけくわしくお書き下さい。

- ① はい必要

( )

- ② いいえ必要なし

( )

ご協力どうもありがとうございました。

## Ⅲ 結果

アンケートによる職業をみると主婦がもっとも多くまた無職と書かれたなかにも主婦があるものと思われる。60才以上には無職が多くみられる(図1)

図1 職業

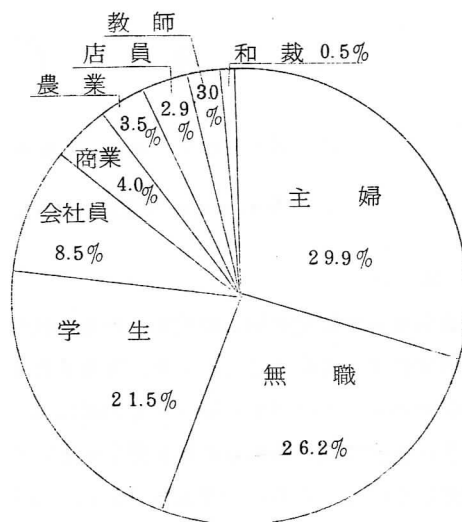


表4 職業別(年代別)一覧表

職業 年齢	学生	主婦	無職	会社員	店員	教師	和裁	農業者	商業
10代	17.2								
20	4.3	4.3	2.9	4.7	2.9	0.5			
30		8.1	4.3	1.3		0.5		0.5	2.2
40		7.6	6.6	2.0		1.0		1.0	1.3
50		6.6	4.3			1.0	0.5	1.0	0.5
60		3.3	8.1	0.5				1.0	
合計	21.5	29.9	26.2	8.5	2.9	3.0	0.5	3.5	4.0

問1のあなたは古い洋服とか着物を何かにつくり直すことをどう思われますかに対しては、よいとの答えが93.3%で、必要ないが5.7%、わからないが1.0%であった。(図2)

必要ないとの答えに20代が多くみられるのは、社会にでて間もない人達で新しいものを創ったり買ったりする時期でもあり、また多少の経済的な余裕も合わせて割り切った考えがうなづけないでもない。

表5 あなたは古い洋服とか着物を  
何かにつくり直すことを  
どう思われますか。(%)  
(年代表一覧表)

年 項目	10代	20	30	40	50	60 以上	合計
よい	16.0	17.0	16.3	19.0	13.0	12.0	93.3
必要なし	1.0	2.2	1.0	0.5	0.5	0.5	5.7
わからない	0.5	0.5					1.0

図2 あなたは古い洋服とか着物を  
何かにつくり直すことをどう  
思われますか。

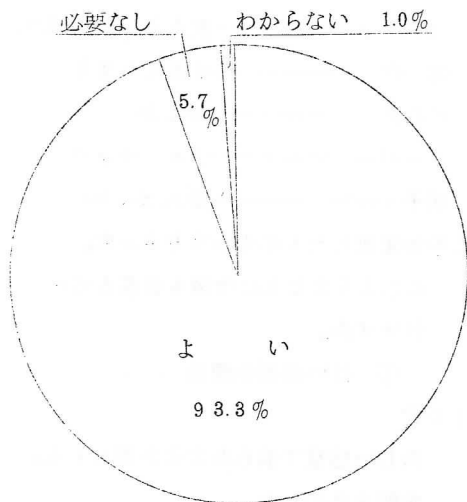


図3 あなたは最近何かにつくり直  
されましたか。

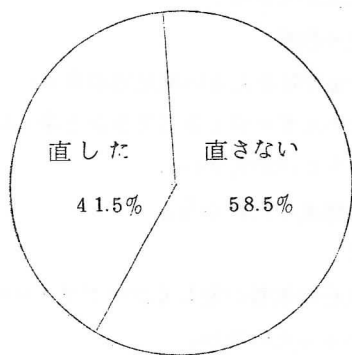


表6 あなたは最近何かにつくり直  
されましたか (%)  
(年代別一覧表)

年 項目	10代	20	30	40	50	60 以上	合計
直した	3.8	5.7	8.1	9.6	6.7	7.6	41.5
直さない	13.3	13.8	9.0	10.0	7.2	5.2	58.5

問Ⅱのあなたは最近何かにつくり直しましたかに対しては図3に示す通り直した方がやや少ない。

つくり直したのを表6の内訳に示す通りもっとも多いのが30代～40代であり、主婦としてもっとも活躍する時期であり、また次に多いのは60才以上にもみられるが主婦をはなれて少しでも生活に時間的余裕を得た人達ではないかと思われる。

つくり直さないの数字をみるとやはり10代～20代がもっとも多いようである。

次に何につくり直されましたかについては、表7に示す通りであり、子どもものへとReformされているものが多いが特に洋服から子どもものにつくり直したのは30代までにみられる。

着物をReformするというのは40代以上にみられるのが興味ある点である。

表7 調査の結果つくり直されたものの一例

10代

ワンピース→ジャンパースカート  
ワンピース→子どもジャンパースカート  
ワンピース→子どものスカート  
ギャザースカート→ミニ・スカート  
スカート→スカート

20代

ジャンパースカート→ロンパース

スカート——→子どもスラックス  
 下 着 ——→雄 布  
 コート ——→ベスト  
 ワイシャツ——→子どもエプロン  
 替ズボン——→半ズボン  
 ワンピース——→スカート

### 30代

男子ズボン——→子どもスカート  
 オーバー ——→ジャケット  
 ツーピース——→子どもジャケット  
 婦人用ジャケット——→子どもチョッキ  
 婦人服——→子どもズボン  
 制 服——→子どもセパレーツ  
 ブリーツスカート——→子どもジャンプスカート  
 スカート ——→子どもズボン  
 スカート ——→子どもスカート  
 セーター ——→子どもチョッキ  
 男子ズボン——→子どもズボン

### 40代

着 物 ——→ワンピース  
 茶羽織 ——→シャツ  
 男子ズボン——→スカート  
 着 物 ——→茶羽織  
 スカート ——→和服用前掛  
 背 広 ——→子ども服  
 着 物 ——→ネンネコ  
 着 物 ——→綿入れ  
 ワンピース——→子どもワンピースとスカート  
 羽 織 ——→道行きコート  
 オーバー ——→ボンチョ  
 ギャザースカート——→セミタイトスカート  
 ブリーツスカート——→ジャンプスカート  
 着物のトップ——→ベルトとタイトスカート

ぬいぐるみ

### 50代

ウール着物——→ロングスカート

ギャザースカート ——→座布団  
 毛糸和服コート ——→男子チョッキ  
 着 物 ——→チャンチャコ  
 オーバー ——→ミデノスカート  
 着 物 ——→娘の着物  
 トップ——→子どもオーバー  
 着 物 ——→布 団  
 コート ——→ワンピース  
 着 物 ——→座布団

### 60代

ウール着物 ——→ワンピース  
 男子服 ——→ワンピース  
 羽 織 ——→綿入チャンコ  
 スカート ——→大人前掛 子どもズボン  
 着 物 ——→子どもねまき  
 ゆかた ——→おしめ  
 オーバー ——→チャンチャコ  
 男子オーバー ——→婦人オーバー

この他重複したものもかなりあった。

このようなことは今後にも必要と思われ  
 れますか。

① はい必要の理由

### 10代

新しい感覚で着られ変化が楽しめる。  
 余暇をたのしむ。  
 経済的。

### 20代

工夫ができる。  
 気分転換  
 お金で味あえない満足感がある。  
 どのように作り直そうかと楽しめる。  
 よろこびが大きい。  
 物価高の折だから。

### 30代

流行の推移が激しく古いデザインのものがもったいない。

子どもに夢を与え自分もたのしい。

経済的

古いものが整理できる。

#### 40代

親のものを子どものものにするのは親子とも嬉しい。

昭和元録がいつまでも続くと思わない。

廃物利用

手持ちの衣料を有効に使うため。

別に理由はないが学生には工夫することが必要と思う。

#### 50代

時間と暇があれば大いに活用したい。

お金をかけずに物を創るたのしみを味あえる。

流行遅れもまた流行のものとして着られる。

物価高に順応するため。

経済的。

物を大切にすること。

#### 60代以上

古いものから生まれる楽しさ、自分の好きなものが着られる楽しさ。

きれいな物、好きな物、柄などいつまでも残しておきたい。

経済的。

必要と思うが高齢のためできないのが残念。

このようなことは今後も必要と

思われますか。

㊤ いえ必要なしの理由

#### 10代

現代は消費時代である。

#### 20代

再生する経験はあるが時間を要する割に

再生品の域を出ない。

それまでしなくても新しいものを買えばよい。

良いデザインのものが安く買える。

忙しい。

弱くなった布は使用したくない。

#### 30代

自分で直す暇がなく他人に頼むのだったら新品を買った方が経済的。

労力時間の無駄。

既製品が型良く安い。

#### 40代

近頃は新しいものが沢山でている。

既製品に安くてよいものがある。

古い生地では長く着られない。

めんどくさい。

#### 50代

この頃はどんどん新しいものがでている。

#### 60代

時間がない。

目も見えなくなったし創り直さなくても、着るものは古いけれども沢山ある。

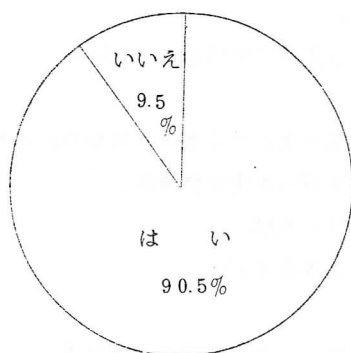
問4でこのようなことは今後も必要とされますかに対しては、はい必要との答えが多い。いえと答えたものがやはり20代に多いようである。

表8 このようなことは今後も必要と思われますか。(%)

(年代別一覧表)

年齢 項目	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
はい	17.0	16.3	15.2	18.1	12.0	11.9	90.5
いえ	0.5	3.3	1.9	1.4	1.4	1.0	9.5

図4 このようなことは今後も必要  
と思われますか。



これらの理由のなかから人数の比がく的多かったものをひろってみると、

10代では、新しい感覚で着られ変化が楽しめる。余暇をたのしむなどがある。

20代では、お金で味あえない満足感とされる。

30代では、経済的とか流行の推移が激しく古いデザインのものもったいない。他には子どもに夢を与え自分もたのしいなどである。

40代では、親のものを子どものものにすることは親子とも嬉しい。

50代の主なものは、時間と暇があれば大いに活用したい。

60代では、古いものから生まれる楽しさ、自分の好きなものが着られる楽しさ。などがあげられている。

なかには必要と思うが高齢のためできないのが残念というものもあった。

また、いいえとの答えには10代らしく現代は消費時代であるとか、20代で再生する経験はあるが時間を要する割に再生品の域を出ないなどがあり、30代では自分で直せる暇がなく他人に頼むのだったら新品を買った方が経済的だというのが多かった。

その他40代以上で極く少数ではあるが近頃は新しいものが沢山でているからその方がいい、などの意見があったのは注目に値する。

## Ⅶ 総括

アンケートの結果、地域別意見の差などはみられなかった。年代別にみると、Reformすることはよい、今後も必要であると答えたものが圧倒的であった。反対にReformする必要なし、今後も必要なしと答えたのは少数であったがこれらは20代に多くみられた。Reformすることはよい今後も必要であると答えながらも最近つくり直した人より、直さない人が多い結果ではあったけれど、現代では消費時代とかいって着捨てることをいわれているが、われわれの生活はただ着捨てて愛着もないような機械的なくり返しでよいのであろうか。物に対する断絶とか愛情とかを、どう考えるか。

新鮮さのみを味あうのが今日的な考え方も知れないが、よい材質のものは、創り直すための新鮮な感覚を養うとともに創り直す喜びを与えて生活にうるおいとあじあいを与えてくれるのではなからうか。

Reformの意義はそのあたりにあると思われる。これから先きもReformは絶えることはないであろうし、創造性を与えてくれるよき資料となるであろう。

本研究は去る6月5日、京都家政短大に於ける衣服学会昭和46年度前期研究発表会で発表した。

なお、1970年12月19日に本学で行われた卒業報告の被服研究中間発表会に於いて、本学の制服に関する研究として、卒業生の在学中の着装による損傷などについてのアンケート調査の結果と、制服一着分(上着、

ベスト、スカート2枚)を親子服にReform  
することについての報告があり、在学生在が卒業後に対する制服をReformする未来への  
あこがれをもったことを、(研究者は岩崎  
吉川、蔵本、傍田、仁伍、西村、浜岡、森、  
山田の学生9名で指導は高橋、小川能子)  
この誌上をもって紹介します。

—— 1970. 12. 25 ——

#### 参考文献

- 1) 暮しの図鑑  
44. 12. 4 主婦と生活社
- 2) 服飾事典 著者 田中千代  
44. 9. 20 発行 同文書院
- 3) 服装大百科事典  
44. 3. 20 発行  
文化服装学院出版局

## Summary

Was the dress-reforming only carried out during the war when clothing materials were scarce?

The reforming seems to be forgotten in this consuming-age when everyone wear clothes and dispose. The following is a collection of enquete in reference to the reforming considered by the present-day people:

The questionnaires were sent to the people of six different age-groups, namely, teens, twenties, thirties, forties, fifties and over sixty, and 70% of the answers were received.

1. Reforming is good..... 93.3%
2. Not necessary to reform..... 5.7%
3. Don't know..... 1.0%

To the question, do you think it necessary to reform hereafter, too?

1. Yes..... 90.5%
2. No..... 9.5%

In Japan it is not considered appropriate to wear a dress and then toss it away without repairing or reforming. A new dress made of superior material can be worn first as it is and then reforming it to wear again will give freshness and charm to it more than once, won't it?